

# ネズミ類の生息調査

群馬県立高崎女子高等学校 高木南緒

## I。はじめに～研究に取り組んだきっかけ～

私はネズミやモグラの生態に大変興味がある。ネズミについて調べていくうちにネズミ類によって生息環境が異なるということがわかった。そこで、ネズミの種類とその環境にどのような関係があるのか知りたいたいと思い、調査研究を行った。

## II。目的

調査地域におけるネズミ類の生息調査

特に、生息環境が人間生活に関連の深いいわゆる「家ネズミ」（ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ）の生息の有無について調査する。

## III。方法

### ① 調査場所

群馬県高崎市柴崎町 33、32-2(図 1)



図 1

調査地の広さは約 826 m<sup>2</sup>。野菜を栽培している(9月には落花生・サツマイモ・サトイモ、12月・1月にはダイコン・白菜が主に栽培されていた)。外周には夏みかんや柿の木がある。駐車場は北側に位置する。同じく北側に農具を収納するコンテナが設置されている。(図 2、図 3)



図 2



図 3

### ② 調査に使用した機材・捕獲調査方法

#### <機材>

調査にはシャーマントラップ(図 4)を使用し、エサとしてオートミール(図 5)を用いた。



図 4

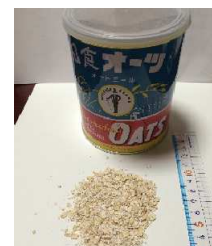


図 5

#### <捕獲調査方法>

- (ア) 折りたたみ式のシャーマントラップを組み立てる。
- (イ) トラップをネズミ類が通りそうな場所に設置する。
- (ウ) トラップの入り口を固定し、オートミールをトラップ内にひとつまみ入れる。
- (エ) トラップのふたが閉まらないよう慎重に設置場所の地面におく。
- (オ) 翌日、トラップを回収する。入り口が閉まっている場合、ネズミの捕獲に成功した可能性があり、トラップを不用意に開いてネズミ類が逃げってしまう可能性があるため、安全な場所でトラップ内を確認する。

### ③ 調査日時

(a)～(e)の計 5 回実施した(図 6～10)。1 回の調査は 2 日間にわたって実施した。調査 1 日目にトラップを設置し、翌日に回収を行った。各回の調査日時、トラップの設置時間、回収時間、トラップの設置台数を下表にまとめた。

	実験 1 日目	設置時間	実験 2 日目	回収時間	設置台数
(a)	H27. 9. 22	17:10	H27. 9. 23	6:20	30
(b)	H27. 9. 24	12:00	H27. 9. 25	15:00	2
(c)	H27. 12. 31	17:00	H28. 1. 1	13:00	28
(d)	H. 28. 1. 3	16:30	H28. 1. 4	9:30	28
(e)	H28. 1. 16	16:50	H28. 1. 17	9:40	28

④ トラップの設置地点

	総数	畑内部	畑外周	コンテナ内部	コンテナ外周
(a)	30	11	19	0	0
(b)	2	0	0	2	0
(c)	28	8	10	5	5
(d)	28	6	12	5	5
(e)	28	10	8	5	5

～(a)～



図 6

～(b)～



図 7

～(c)～



図 8

～(d)～



図 9

～(e)～



図 10

IV. 結果

調査の結果を下表に示す。

	設置台数	結果
(a)	30	捕獲なし
(b)	2	2 個体捕獲
(c)	28	捕獲なし
(d)	28	捕獲なし
(e)	28	捕獲なし

5 回の捕獲調査を実施し、2 個体のネズミ類を捕獲した。トラップの総設置台数は 116 台である。捕獲されたのは 1 回の捕獲調査(b)のみで、畑内に設置してあるコンテナ内で捕獲された。ただし、その後も同一地点にトラップを設置したものの（詳細については後述）、ネズミ類は捕獲されなかった。またコンテナ以外にも作物周辺(畑内部)・畑外周・コンテナ外周の調査では調査地域内にトラップを設置したが、いずれの調査でもネズミ類は捕獲されなかった。

調査(b)のトラップ設置場所は畑内に設置してあるコンテナ内であり、その地点でネズミを 2 個体捕獲した。このネズミを冷凍し後日自然史博物館にてネズミの種類の特定及び骨格標本化した。なお、今回の調査で捕獲したネズミの個体番号を「150924-1」「150925-2」とする。捕獲したネズミ類は、いずれも切歯に特有の切れ込みがあることから（切歯に特有に切れ込みを示す図、あるいは、写真があることが望ましい）「ハツカネズミ」と同定された。2 個体ともに群馬県立自然史博物館にて収蔵予定である。



150924-1





150924-2



## V. 考察

### ～調査地点周囲の環境について～

今回捕獲されたネズミ類はハツカネズミのみであった。ハツカネズミの生活環境は、人の住むところに関係しているとされる（鶏舎や倉庫の中、家屋周辺など）。また今回の調査で捕獲されたネズミ類はハツカネズミのみであることから、調査地点は、いわゆる“野ネズミ”が豊富に生息する様な環境ではなく、むしろ「人間の生活との接点が多い環境であると考えられる。この事は調査地点付近には交通量が多い道路（群馬県道133号元島名倉賀野線）もある一方で、いわゆる“野ネズミ”の生息に適するような環境は見られない点とも整合的である。また調査地点は畑として利用されており、2日に1回程度の頻度で人の出入りがあった。さらに調査地点の北側・南側にある小道は近隣住民の散歩に多く用いられている。このような要因も今回の捕獲調査結果に影響を与えていると考えられる。

### ～調査（b）について～

今回唯一ネズミ類が捕獲されたのは調査(b)である。この調査におけるトラップ設置地点は畑内に設置されているコンテナである。普段コンテナは扉が閉められ鍵もかけられている。コンテナの扉が開放されているのは畑作業をするときだけである。またコンテナ内を観察したところ、ネズミ類の定住を示すような痕跡も見られなかった。このことから「コンテナ内にネズミは定住しておらず、捕獲された2個体のハツカネズミは扉が開放されている時に侵入した」のではないかと考えられる。

調査(b)では捕獲率が高く、2つのトラップを設置し、その両方のトラップでハツカネズミが捕獲された。そこで、その後の調査(c)、(d)、(e)においても同一の地点にそれぞれ5台のトラップを設置したが、ネズミは捕獲されなかった。このことはハツカネズミが豊富に生息している訳ではないことを示唆している。また調査(c)終了後トラップ周辺にまいたオートミールを片付けずに放置したところ、調査(d)開始時まで、オートミールの量に変化は見られなかった。このことは両調査の間において、ネズミ類が進入していないことを示唆する。なお、調査(c)終了時から調査(d)開始時までコンテナの扉は開放されていない。

さらにコンテナの外側・内部を調べたところ、外側と内部をつなぐ穴は確認できなかった。また調査(c)、(d)、(e)ではコンテナの外周にそ

れぞれ5台トラップを設置したが変化はなかった。

### ～捕獲時期について～

ネズミを捕獲することができたのは9月に実施した調査(b)のみであり、12月・1月に実施した調査(c)、(d)、(e)ではネズミ類は捕獲されなかった。このことは「ネズミの活動は季節によって変化している」可能性も考えられる。